

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	三重県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	津市立修成小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員教
学級数	2	2	3	2	2	2	2	15	23
児童・生徒数	65	70	85	71	61	69	5	426	

研究の概要

1. 研究主題

豊かな感性をもち、自ら課題を見つけ、行動する子をめざして
 —— 個を大切に学習のあり方を探る ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・算数

算数は児童の理解の状況に差が出やすい教科であり、昨年度(2年以上実施)の研究結果と保護者に対するアンケート調査の結果から、少人数授業の実施学年の枠を広げ全学年で実施をし、全教職員で研究を深めるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>○テーマ 全学年を通して系統だった「算数科少人数授業」の充実。</p> <p>○研究の見通し 全教職員で、習熟度別指導を中心とした「算数科における少人数授業」を行うことにより、少人数授業についての理解を深め、授業実践を通して効果的な学習のあり方の研究を深める。 年度末には、少人数授業における「学力の伸び」「学習意欲の向上」の成果と課題、保護者、地域への啓発推進結果のまとめを行い、来年度の課題につなげる。 尚、平成15年度の研究の取り組みは、インターネットを通して、地域、全国へ情報提供をする。</p> <p>○研究の内容・方法 個に応じたコース別学習の充実 本年度は、基礎・基本の定着をめざし、全学年で少人数授業を行うものとする。高学年においては、「補充的な学習」と「発展的な学習」が充実するように、学級枠をはずして、細分化したコース別学習のあり方を探っていく。1年生は、本年度からの試みであるので、1年生に応じた最も有効な少人数授業のあり方を研究していく。</p>
--------	--

	<p>評価基準の作成と評価と指導の一体化</p> <p>単元の評価規準に対応した評価基準を作成し、一人一人の学習の様子をきめ細かく見ていく中で、児童全員に評価基準 B 以上の力が定着することをめざした指導のあり方や指導法の改善などを研究していく。</p> <p>また、「チェックリスト」や「個人カルテ」の活用をさらに進め、指導の振り返りを行ったり、今後の指導に役立てたりして、一人一人を大切に学習の充実をさらに図る。</p> <p>保護者・地域への啓発推進</p> <p>授業参観、「学年通信」、「修成通信」、「算数だより修成」などで、少人数授業の趣旨や成果、児童の学習状況などを随時伝えることにより、保護者の理解をさらに得る。保護者の意向や反応を大切に、理解、協力を得ながら研究を進めていく。</p> <p>インターネットを通して、地域、全国へ、研究の取り組みを情報発信をしていく。</p> <p>CRT標準学力テストの活用</p> <p>CRT 標準学力テストを 1 月上旬に全学年で実施し、一人一人の学力定着状況を把握し、学年末及び次年度への指導に役立てていく。また、基礎・基本の定着を目指した少人数指導の成果や課題を検討していく資料とする。</p> <p>今後の研究に生かせる資料集積</p> <p>各単元に応じた少人数授業学習形態、プレテスト、チェックテスト、チャレンジプリントなど、昨年度に引き続き資料を集積し、少人数授業の体系づくりを固める。</p>
--	--

平成 16 年度	<p>○テーマ</p> <p>基礎・基本の定着、学習意欲向上を目指したコース別学習のあり方と授業改善および家庭学習との連携</p> <p>○研究の見通し</p> <p>個に対応したきめ細かい指導の充実と、学習意欲を高める授業法の改善を中心とし、授業を通して研究を深めていく。家庭学習についても個に応じた学習課題を宿題として出すなどし、保護者と連携して基礎学力の向上を図る。</p> <p>また、継続的な評価・指導に生かす評価を目指し、「個人カルテ」の作成と活用をさらに工夫する。3 学期始めには、CRT 標準学力テストを実施し、データを分析して学習内容の定着度や学習意欲の高まりなど 3 年間における少人数指導の研究成果を確かめる。</p> <p>尚、研究の取り組みや成果については、インターネットによる情報発信や授業研究会などによる公開、還元を予定している。</p> <p>○研究の内容・方法</p> <p>全学年での細分化したコース別学習の充実</p> <p>基礎・基本を定着させるには、低学年、中学年からコースをさらに細分化し</p>
----------	--

個に応じたきめ細かい指導を行うことが必要である。全学年で「補充的な学習」「発展的な学習」が充実するよう、学級枠を外して、個のつまずきや個の能力に対応できた指導を行う。

教師の指導力向上および授業改善

全教職員が意思統一をして、基礎的な教育技術をしっかり身につけ、児童への学習ルールの徹底を図っていく。指導にあたっては、めあてをはっきりさせた学習指導、個のつまずきへの対応ができた指導、個に応じた教材提示の工夫、基礎コースと発展コースとの授業における違いの工夫、発問のあり方などの研究をさらに深め授業改善を行う。

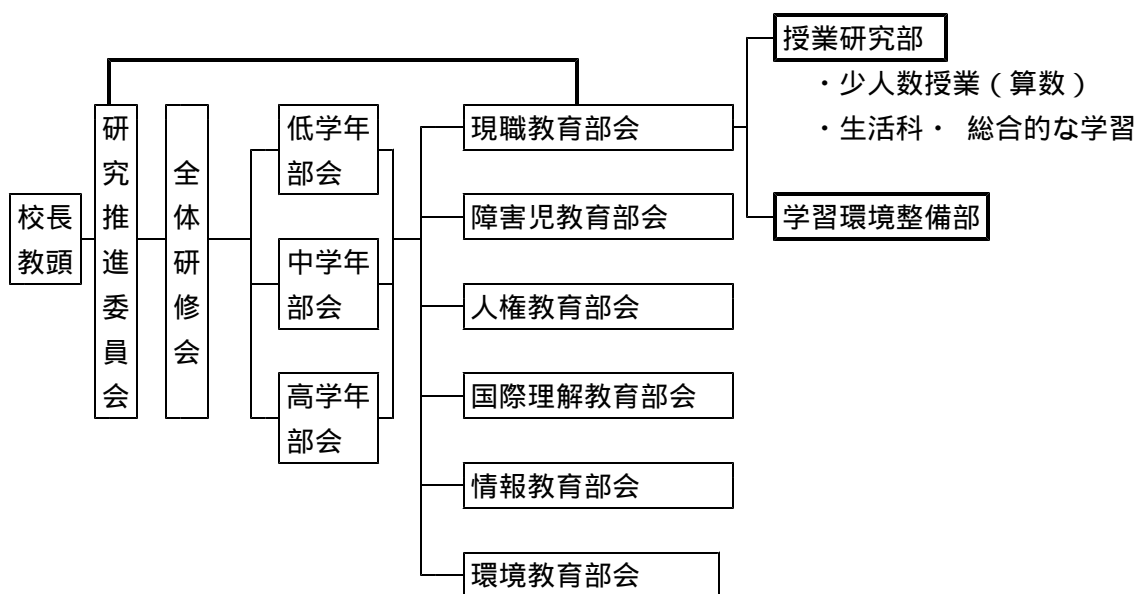
指導と評価の一体化の充実

単元の評価規準に対応した評価基準を作成し、「評価」は学習指導の途中の段階の仕事・プロセスという考えのもとで、指導と評価の一体化を図る。全ての児童が評価基準 B 以上に到達することを目標とし、そのための指導のあり方や指導法の改善を探る。「個人カルテ」の作成の仕方、有効な活用のあり方についての研究を深める。

保護者との家庭学習の連携

学習したことを定着させるには、家庭学習での繰り返し学習が不可欠である。そこで、家庭学習を充実させるため、学年通信「算数コーナー」や保護者会などで具体的な指導方法、学習内容を随時知らせ、学校での少人数指導と家庭学習をうまくつなげていく。また、保護者の理解と協力を得ながら、個に応じた家庭学習も行っていく。

(3) 研究推進体制



授業研究部

少人数授業（算数）

生活科・総合的な学習

学習環境整備部

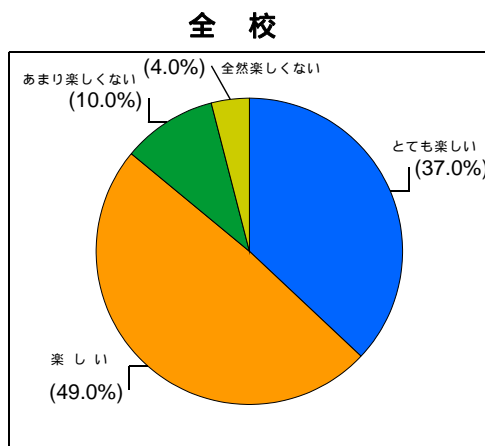
- ・ 研究授業の計画
- ・ 指導案の形式の検討
- ・ 授業後の成果と課題の研究
- ・ T・T 指導、習熟度別指導についての研究
- ・ 研究図書・資料の収集、整理（会議室）
- ・ 読み聞かせ文庫・児童用問題集整備（職員室）
- ・ 校舎内の整備・・・学習資料室の整備（北校舎 3F 東・2F 西）
- ・ 校内掲示板の活用の研究・・・昇降口、廊下掲示板
- ・ 人材マップ作成
- ・ パソコンソフトの整備

授業研究部の算数少人数授業については、必要に応じて算数少人数担当者が集まり話し合いをもつ。

平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

算数を楽しいと感じ、意欲的に学習に取り組む子どもが増えた。



11 月実施アンケート

少人数授業は楽しいですか？

個に応じたきめ細かい指導、コースに応じた指導法の改善により、学習内容が理解でき、算数が好きになり、楽しく学習する児童が増えた。

また、高学年になると共に算数離れがめだつ傾向にあるのだが、本校では、89%の 5・6 年生が算数を「とても楽しい」

「楽しい」と答えており、どの学年の児童も意欲的に学習に取り組んでいる。

また、算数の学習で学ぶことの楽しさや充実感を味わった児童は、他教科への学習意欲を高め、いきいきと生活している。

高学年において、コース別学習の充実ができた。

5・6 年生では学力の開きが大きいこともあり、「補充的な学習」と「発展的な学習」が充実するように、学級枠をはずして 3 コース（4 クラス）で実施した。その結果、「基礎・基本コース」では、最少人数のため個に応じた学習が充実でき、基礎・基本の定着を図ることができ、児童の学習意欲を高めることができた。「発展コース」では、問題作りなど生活と関連した算数学習にも取り組むことができた。

児童が自分に合った各コースでの学習課題に取り組むことにより、基礎学力と学習意欲の向上を図ることができた。

指導と評価の一体化が図れた。

評価基準を作成して、一人一人の学習の様子をきめ細かく見ていく中で、本年度重点的に行った領域「数と計算」では、評価基準 B 以上の児童が低学年では95%を占めた。中・高学年でも、同じ領域の「表現・処理」の観点では、90%前後であった。(市販の学力診断テスト結果より)

「個人カルテ」を作成し、一人一人の活動状況や学習定着状況を記録に残し、教師間で情報交換をして指導に役立てたり、3学期には CRT 標準学力テストを実施して、学年末の個別指導に活かしたり、来年度の資料として指導に役立てていることが成果を高めたといえる。

保護者への啓発推進により、保護者・地域の理解と協力を得ることができた。

授業参観、「算数だより修成」、「学年通信～算数コーナー～」、保護者説明会やインターネットによる情報公開等を通して、保護者や地域に少人数授業の趣旨や成果、児童の様子を随時伝えることにより、少人数授業に対する理解と協力を得ることができた。また、授業参観後の保護者向けアンケートにより意見や要望をいただき、保護者の意向や反応を大切に研究を進めることができた。

2. 今後の課題

全学年でコース編成を細分化して、「補充的な学習」と「発展的な学習」を充実させ、個に応じた指導を徹底させること。

本年度の研究により、低学年、中学年においても学力の開きが大きく、2コース編成ではコースの中での学力差がありそれに対応した指導がむずかしい現状にあることが明らかになった。特に、2年生以上の学年においては、3コース編成で学習を進めていくことが望ましい。

指導と評価の工夫をさらに図ること

少人数という利点を最大限に生かし個に応じた指導へとつなげていくための、指導と評価のあり方をさらに探究する。そのために、評価規準に対応した評価基準に基づき評価を行い、基準 C の児童についてはそのつまずきを分析し、事後指導、継続指導に重点をおくこと。「個人カルテ」については、個人記録の作成の仕方や活用についての工夫を図り、継続的な評価・指導に役立てる必要がある。

数学的思考力の育成を図ること

本年度は、「数と計算」の領域に絞り実践を行ってきた結果、「表現・処理」の観点では、全学年 90%前後の定着率を占め、計算技能などの基礎的内容については定着させることができた。しかし、まだまだ「数学的な考え方」の定着率が低い傾向にある。今後、領域を全領域に広げ、数学的思考力の育成にも重点をあて、研究を進める必要がある。

教員の指導力を高め、学力の向上を図る。

算数科を中心とした授業研究を進める中で、基礎・基本の定着を図り、自ら学ぶ力の育成を目指すには、各学年に応じた学習ルールの定着と学習を支える基礎的な技能

(発表の仕方・話し合いの仕方・上手な聞き方)などの学習規律を確立することが大切であることを改めて感じた。3学期に引き続き、来年度も本校の児童に必要な部分を学校全体で意思統一し、学習ルールを定着させていく。また、教師の基礎的な教育技術を高める研修や授業の進め方についての研修も取り入れていく。

学力等把握のための学校としての取組

1 単元ごとの学力診断テスト

(目的) ・各単元の学習内容の定着度を確かめ、事後指導に活かす。

(実施内容) ・単元ごとの学習内容(算数)

(時期) ・単元の学習終了後随時

2 CRT 標準学力テスト

(目的) ・1年間における学習内容の定着度を確かめ、次年度への継続指導につなげる。

(実施内容) ・1, 2学期の学習内容(算数)

(時期) ・1月上旬

3 「少人数授業(算数科)」に対する児童の意識調査

(目的) ・算数少人数授業に対する児童の意識を知るため。

(実施内容) ・アンケート「算数少人数授業は楽しいですか？」およびその理由

(時期) ・12月上旬

フロンティアスクールとしての研究の成果の普及

1 ホームページ作成

本校の研究の取組・各学年ごとの実践報告・研究の成果と課題等ホームページを通して情報発信を行っている。

2 研究紀要作成

研究紀要を作成して、研究の成果等を津市内の小学校に配布予定。

3 研究の取組および成果を他校へ伝える普及活動

1学期から、県内外からの多数の教師が本校の取組を聞きに訪れている。本校の取組や成果・課題を説明する中で、他校の取組なども情報交換し合い研究成果を普及している。

また、授業公開なども行い少人数授業のあり方を伝えている。

<本校を訪れた学校>

6月 香川県東讃岐地区教育関係者視察
久居市立栗葉小学校

11月 員弁郡東員町立笹尾東小学校

1月 度会郡小俣町立明野小学校

2月 長崎市立伊良林小学校

2月 東京都品川区立台場小学校
東京都品川区立御殿山小学校

東京都品川区立浅間台小学校

東京都品川区立城南第二小学校

東京都品川区立城南小学校

東京都昭島市立武蔵野小学校

学力向上フロンティアスクール津市立修成小学校の基礎データ

1 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

2 【学校規模】 13学級 + 2学級 (障害児学級)
6学級以下 7 ~ 12学級
13 ~ 18学級 19 ~ 24学級
25 学級以上

3 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
一部教科担任制 その他

4 【研究教科】 算数

5 【指導工夫改善に関わる加配の有無】 有 無